

令和7年度

坂野小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 相手の話をしっかりと聞く態度の育成
- タブレット・ICT機器の効果的な活用

校長

近藤 憲市

学力向上推進員

教諭 西崎 奈美

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○基礎的・基本的な知識・技能の習得のためにまじめに取り組む児童が多い。</p> <p>●漢字・九九・計算などの定着に個人差がある。</p> <p>●必要な情報を取り出したり、情報を比較・関連付けて理解したりすることに課題がある。</p>	<p>・基礎的・基本的な知識を確実に身に付けることができる。</p> <p>・様々な情報を正確に読み取り、比較・関連付けて考えを形成することができる。</p>	<p>・朝の活動でタブレット端末等を活用し、学年にとらわれず実態に応じて、漢字や計算の練習を行い、基礎学力の定着を図る。</p> <p>・ノートに自分の考えを書くなどして1人1人が考えをもった上で話し合いをさせ、友達の意見を聴き合うことにより、自分の考えを広げ深められるようにする。</p>			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○ペアやグループ学習では、自分の意見を発表し、活発に話し合うことができる児童が多い。</p> <p>●根拠を示して考えを述べたり、友達の意見と比べて自分の考えをまとめたりすることが苦手な児童がいる。</p>	<p>・自分の考えを根拠を示して表現することができる。</p> <p>・友達の意見を聴いて共通点や相違点に気づき、自分と比較したりまとめたりすることができる。</p>	<p>・根拠を説明するための話型や書き出しのモデルを提示する。</p> <p>・自分の思考や友達の意見を取り入れたノート作りができるように指導する。</p> <p>・ICTや思考ツールを活用することで、比較する・分類する・要約する等の思考スキルが身に付くようにする。</p>			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題には熱心に取り組む、家庭学習にもまじめに取り組むことができる児童が多い。</p> <p>●自ら課題を見つけて取り組むことが苦手な児童がいる。</p>	<p>・自ら課題を見つけ、主体的に学習に取り組むことができる。</p> <p>・進んで家庭学習に取り組む、興味のあることを見つけたり、苦手なことにも粘り強く取り組んだりすることができる。</p>	<p>・振り返りの視点を示し、毎時間児童が何を学んだか振り返ることができるようにする。</p> <p>・ポジティブ行動支援(PBS)の手法を生かした授業づくりに取り組む。</p> <p>・「自主学習の手引き」を活用したり、モデルとなる自主学習ノートを掲示したりして、自主学習を充実させる。</p>			